

第1回立地適正化計画策定検討委員会 会議録	
日時	令和6年6月17日(月) 10:00開会 11:40閉会
場所	ワン・テン庁舎2階大ホール
出席者	<p>【委員】 北原委員, 大津山委員, 加藤委員, 齋藤(嘉)委員, 吾妻委員, 菊田委員, 赤畑委員, 齊藤(良)委員</p> <p>【事務局 気仙沼市建設部都市計画課】 菅原建設部長, 佐藤課長, 菅原課長補佐兼都市計画係長, 大吉課長補佐兼都市施設係長, 齊藤主査, 佐藤主事, 齋藤主事</p> <p>【事務局支援 ランドブレイン株式会社】 石村, 姜, 和田, 木下</p>
配布資料	次第, 委員会設置要綱, 座席表, 委員名簿, 資料1, 北原委員スライド資料「立地適正化計画のススメ」, 大津山委員スライド資料「気仙沼市立地適正化計画策定検討委員会」
会議内容	
<p>1.開会 事務局より開会宣言</p> <p>2.委嘱状交付 出席委員に委嘱状を卓上配布</p> <p>3.市長挨拶 菅原市長より挨拶</p> <p>4.委員紹介 事務局より出席委員を紹介</p> <p>5.委員長・副委員長互選 委員より事務局一任の声があり, 事務局案の通り, 委員長に北原啓司氏, 副委員長に加藤正禎氏を選任</p> <p>6.議題 (1)立地適正化計画について及び(2)今後の予定について, 事務局より説明。 これに対する意見・質疑応答は別添の通り。</p> <p>7.その他 北原委員長, 大津山委員より講演を実施。 これに対する質疑応答は別添の通り。</p> <p>8.閉会 事務局より閉会挨拶</p> <p>■議事録(要旨)</p> <p>○6(1)立地適正化計画について</p> <p>委員:唐桑や本吉にも光が当たるような, 期待感を持てるような市街地の中の計画を進めていってもらえたらと思う。</p> <p>委員長:おっしゃる通り。先ほど事務局より説明があったように, 都市計画区域の中で誘導区域は設定されるが, 都市計画区域外の本吉や唐桑は誘導区域に選ばれなかったとしても, 小さな拠点としてやっていくということだった。そのようなメリハリが重要だと思う。</p> <p>委員:人口が減少していく中で中心地がある程度しっかりしていて町が成り立っていないとそもそも好きな場所にも住めないと思う。将来的には中心地に機能が集約していくことで街が生き残っていくと思うので私はいいと思う。</p>	

委員：私は公共交通という視点から話をしたい。本吉から気仙沼に行く際に不便をしている高齢者もいる。集約の在り方やデマンド交通など考えながら意見を出していきたい。幹となる路線など考えたい。

委員：中心市街地に住む方も満足できるような計画にさせていただきたいと思う。集約ということで時間を掛けながら都市機能の誘導集約を進めるということだが、どれくらいの時間をかけて集約を進めるのか。

事務局：計画期間としては20年間としている。令和27年の人口推計では3万人台になるが、その減少に対応しながらということは想定している。

委員：住み慣れた地域で暮らし続けたいというのが皆さんの本音だと思っている。すべての方々の要望に応えることは難しいと思うが、地域の中で地域の方々が住み慣れた暮らしをできるように計画に反映してもらえたらと思う。

副委員長：持続可能なまちづくりということだが、市には「サステナ市民会議」がある。そこでの議論と立地適正化計画をどう結び付けていくのか。2点目として、20年間という区切りの中で社会経済状況が色々と変わってくるなか、見直しはどの程度できるのか。3点目として、国土交通省の支援を受けてまちづくりができるということだが、補助率ほどの程度か。

委員長：2つ目の問いに答えると、実際、他市では見直しをしている。特に2019年台風の影響で水害の被害が多かった時に居住誘導区域にしていたのに水害の被害があった街があり、変更があった。また、20年というスパンの中でいったん誘導区域に指定したもののどんどん人が少なくなってしまったという場合に、別の場所を誘導区域に指定しようとして変更することもある。そういう意味で言うと、今決めるという話ではなくてこれからずっとみんなで決めていこうという話だ。

事務局：ご指摘の通り、市では「サステナ市民会議」が設置されているし、人口減少対策に取り組む「けせんぬま未来人口会議」も実施されている。このような庁内関係各課の計画とも調整して計画に反映していく。次に見直しについて、制度上5年ごとに評価し、見直ししていくことになっている。最後に補助率について、各種制度によって異なるが、おおむね40～50%程度。国からの情報を確認しながら計画策定に活かしていきたい。

事務局：補足すると、「サステナ市民会議」と立地適正化計画は切っても切り離せないものだ。気仙沼の将来を考えていくにあたって不可欠な計画であることから、委員の皆さまからは色々なご意見をいただきながら計画策定していきたい。

委員：防災指針を策定していくにあたり、いかに正しく恐れるか、恐れすぎず、自然環境といかにいい距離を保ちながら住む場所、暮らしを定めていくかが重要になるかと思う。自然環境をどう守りながらコンパクト化していくか。もう一つの論点としては20年後を想定して、いかに若者や地域の住民から声を聴いていくか。今後の予定として地域の住民懇談会など住民の方にお話を聞くこともあるかと思う。初回の策定でどこまでできるかという話もあるが、2回目の更新の時にも多く地域の方の声を聴きし、中学生や高校生からの声を拾っていくというのも一つかなと思っている。最後の3点目だが、立地適正化計画というのはどうしてもコンパクトという言葉の方が前面に出てしまう。いかにネットワークをつないでいくか。公共交通という意味もあるが、人的に繋がっていくという面もある。今後、盛り込んでいければと思う。

事務局：現状、危機管理課が地域の住民の声を聴きながら災害を想定し、ハザードマップの見直しをしているところ。また、気仙沼市は津波も起き、河川の氾濫の想定もある。それから急傾斜地の地形もある。そういったところを鑑みると非常に難しい地形である。お話

されたように正しく恐れるということでソフト面と併用しながらこの計画は進むものと思っている。若者の声を聴くということについては、次の今後の予定でお話するが、3回目の策定検討委員会が終わったら住民懇談会を予定しており、今後工夫していきたい。交通並びにコミュニティ形成についても心得て進めていきたい。

委員長：立地適正化計画について間違った解釈があるという話があったが、集約という言葉が間違った解釈をされる場合がある。市町村合併により、合併される前のもとの拠点があつたはずだし、誘導区域から外れてしまう拠点も出てくる。例えば区域に入らない地域でも、市としてしっかり持続可能な小さな拠点として扱っていく等、考えを提示することが必要。また、市役所移転後のまちの構造を考えて、立地適正化計画を手法として使っていくことが必要となる。地域の懇談会についても、住民がわかる言葉で説明していくことが良いと考える。

○6 (2) 今後の予定について

副委員長：一般市民に対する説明として、パブリックコメントや住民懇談会などは重要だが、一方で地権者などに対する説明も必要だと思う。先進地などの事例など抑えているのか。

事務局：地権者も多くいるので周知方法について検討しながら進めていきたい。他市では、届け出を実際に行う市内の不動産業者を集めて計画公表前に説明会を行っているようだ。これを参考に検討したい。

委員長：他市でも居住の制限をすることになった際に当時は不動産業者等を集めて説明などをした。現在はうまくいっているようだ。そのためにはまちづくりのビジョンがはっきりしている必要がある。やっていく中で他の事例等を調べて、参考にして検討していただければと思う。

委員：サステナ市民会議でのビジョンなどと組み合わせていくことで住民も納得してもらえるのではないかと思う。

委員長：すりあわせということではなく、組み合わせるべきだというご意見だと思う。事務局はどうか。

事務局：おっしゃる通りだと思う。サステナ市民会議での議論もしっかり取り入れていく必要があると思う。

委員長：先ほど検討委員会は今回を含め三回を予定しているということだが、委員会の中で更なる議論が必要と思ったら回数が変更になる場合もあると思う。

○7 その他

副委員長：区域外のエリアについて立地適正化計画の中に盛り込むべきなのか。

委員長：計画の考え方の部分でそういったものを表すこともあるが、国に出す報告書の中にはそのようなものは不要。だけど市民に見せるものの中には将来ビジョンとして入れるべき。他市では都市計画区域外も含めてすべて計画の中に入れた例もある。どのような形で盛り込むのかについてはこれから検討していくのがいい。

事務局：気仙沼らしさというところを工夫して考えていかなければならないと思う。